

和の光

宝塚市立西谷中学校



中学3年生と高校受験

私は、受験期の中学生が、いちばん好きです。などという、いま心配でいっぱいのお母さん方からは、ひとごとだと思って、と反発されるかも知れません。

なぜなら、前にも述べたように、「打てば響く」からです。自立を前にして高まる。子どもの胸の鼓動が聞こえるからです。この時期には、これまでできなかったこともできます。たとえば、生活のリズムを確立することもその一つです。

いま、2学期の中間テストを終えて、中学での勉強のまとめに入る時期に、何よりも大切なのは、一日一日の授業をしっかりと受けることです。朝9時ごろから始まるこの一時間一時間にベストコンディションで取り組むためには、少なくともその2時間前には起きて、体を動かしておくことが大切です。学校の授業とは別に、自分で組み立てた勉強のシステムを持つことは望ましいのですが、何よりもまず、5～6時間の授業そのものにおいて、最も活動的であり、積極的であることの方が大切です。そこで、緊張した一刻一刻が子どもの力になります。知能を鍛えます。生活を規律あるものにする意味が、子どもにいちばん納得されやすいのがこの時期ではないでしょうか。

もちろん、そんなにすんなりといくとは限りません。でも、多くの子どもたちは、厳しい条件の中でも、いま、発達への欲求をうずかせながら、苦闘しています。襟（えり）を正し、悩みも喜びも子どもと共感しつつ、親・大人としての責任を、どう果たすべきか考えましょう。子育てこそは、親が育てられる場なのです。

この文章は、「中学3年生と受験期」という新聞のコラムに載っていたものです。保護者の皆さんもご自身が中学生の頃、受験に対する不安を多少は持たれていたのではないのでしょうか？ 特に中学3年生の1年間は「進路に対する希望や不安」で心が大きく揺れる時期です。しかし、子どもたちは、自立に向けて精神的に最も成長する時期で、私たち教師や大人が子どもの心に寄り添い、自分事として生活や学習の在り方、進路について考えていくことが大切だと思います。

頭ごなしに叱ったり、子どものことを否定したりするようでは、子どもは何も変わりません。私たち教師や大人が、いかに子どもの心を理解し、共に考えていけるかが、一番大切なことだと思います。そうすれば、必ず私たち教師や大人の思いが子どもに伝わります。打てば響く、そんな関係がつかれるように努めたいと思います。

学校長 筒井 啓介

■学活の様子（5月14日）



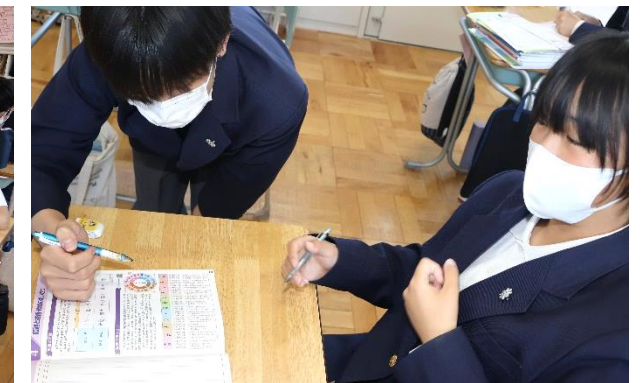
学活の様子（1年生）

1年生の学活の様子を覗くと、中学校で初めての中間テストに向けて「どのような勉強方法や工夫ができるのか」を、担任の先生の経験を踏まえながら話をされていました。テスト範囲と計画表が配られますが、しっかりと活用してテストに臨んでいこう。



学活の様子（2年生）

2年生の教室では、普段家でどのように過ごしているのかを付箋紙に書いてみんなに紹介をしていました。「推しの動画を見る」「10時までにベッドに入る」「毎日ゲームをする」などが書かれていました。「僕も同じだ」とか、「すごいね」など、友達の意外な側面も発見できたようです。



学活の様子（3年生）

3年生の教室では、修学旅行でお世話になった民泊の家庭の方にお礼の手紙を書くための構想を練っていました。民泊家庭の方の心づくしのおもてなしを受けて、わずか1泊2日の間に沖縄の自然や文化などについて、貴重な体験をさせていただいた感謝の気持ちが伝わるといいですね。



中間テストの目標(3年生)

3年生の教室の後ろには、受験生ということもあり、中間テストに向けた意気込みが掲示されていました。「分からないところをしっかりと先生に聞く。1日3時間以上は勉強する…」「提出物を完璧にする…」「問題集を何回も解く」「5教科400点以上」のような内容が書かれていました。この目標が実現できるように全力で臨んでいこう。



クラス目標(2年生)



クラス目標(1年生)

1・2年生の教室には手作りの「クラス目標」が掲示されていました。1年生は「最高のクラス」と書かれており、常に助け合うクラス、みんなが楽しいクラス、元気なクラス…と具体例が複数示されています。2年生は「初心を忘れずに歩いていこう!!」と書かれていました。どれも素敵な目標ですね。これらの目標が実現できるようにみんなの力を合わせていこう。

■修学旅行へ行ってきました(その10 国際通り2)

修学旅行3日目に班ごとで国際通りを散策しました。地図を片手に班で計画したお店を回って昼食を食べたり、お土産を買ったりして楽しく過ごしました。その時の様子を紹介します。



沖縄県庁前にて(2024.05.09)



第一牧志公設市場にて(2024.05.09)